

令和3年度 学校評価総括表(御所小学校)

- 1 学校教育目標 「三あい運動(学びあい、喜びあい、励ましあい)」を通して、自他の命を大切に、共にたくましく社会を生き抜く力をもつ子どもを育成する。
- 2 本年度の重点目標
 ① 健康・安全教育の充実 ② 人権教育の充実 ③ 一人一台端末を活用した確かな学力の育成
- 3 総括表

評価規準 S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる

領域	評価項目	自己評価(考察と課題)	評価	次年度への改善点等
学校経営及び学校運営	経営方針の明確化とその実践状況	共通理解が十分に行われ、協力体制が取りやすかった。経営方針については、機会を捉えて積極的に伝えてきた。保護者アンケートでは、「学校が子どもによく分かるように工夫して授業をしている」の項目において、92.9%があてはまるという回答であった。	A	学校教育目標の実現に向け、「チーム御所小」として組織的に取り組んでいく。また、PTA総会等の機会を捉え、保護者や地域の方々への周知を図っていく。
	校務分掌分担の適正化と組織的な活動・運営	役割分担が明確であり、報告・連絡・相談を密にし、組織として取り組めた。教職員アンケートでは、「学校運営に教職員の意見が反映されている」「校務分掌は特定の教員に偏ることなく適材適所が生かされている」の項目において、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせると、100%であった。	A	教職員一人一人の特性を考慮したうえで、校務分掌を決定するとともに、年度始めの共通理解はもちろんのこと、途中でも修正するなどして、組織的に機能できるようにする。
	教職員研修体制の確立と実践	人権教育主事西部ブロック大会に向け、人権教育主事、研修主任が中心となり、計画的に取り組んだ。三部会(学力向上推進部、道徳・人権教育推進部、安全・健康・体力向上部)では、今年度の取組の成果と課題を検証し、次年度への方向性を持つことができた。メンターチームも機能し、タブレット端末を用いた研修等をOJTで行うことができた。	A	全教員が一人一台端末を授業等において効果的に活用できるよう研修やOJTを進めていく。3部会については、PDCAサイクルを意識しながら、今年度の成果と反省を生かして、具体的な取組を実践していく。
	教職員の資質向上に向けた取組	本校の教職員一人一人が、確固たる高い規範意識と倫理観を醸成するために、e-ラーニングやタスクフォースからの提案等を活用して、知識と意識の更新を図ることができた。	B	次年度も外部講師を依頼するなどして、全教職員のコンプライアンス意識の醸成に努めていきたい。メンタルヘルスの保持増進の観点からの取組も充実させたい。
	教育環境の安全管理及び整備	保健主事が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を呼びかけ、全教職員で環境整備に取り組んできた。施設管理については、定期的(月1回)に安全点検を全教員で実施している。	A	次年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大について懸念されるので、その基本的な予防対策を、学校全体で徹底していく。また、施設管理については、今後も教職員全員で定期的な点検を行い、児童が安心・安全な中で学習ができるようにする。
	業務改善	週1回の定時退庁日を設けるとともに、グループウェアを効果的に活用し、勤務時間の可視化やペーパーレス化等、超過勤務の縮減を図ることができるよう努めている。	B	「とくしまの学校における働き方改革プラン」を参考にしながら、校務支援システムの活用、職員会議における資料のペーパーレス化等、校務の効率化をさらに進めていく。
教育活動	確かな学力(学習指導)	算数におけるノートの取り方(めあて・まとめ・ふりかえり)について共通理解を図り、継続して指導を行った。家庭学習の振り返りを定期的に行うことで、取組の様子を把握するとともに、改善点等について保護者に働きかけするなど、適切な指導を行うことができている。	B	学力向上につながるよう今年度の取組を振り返り、次年度から学校全体で取り組む具体的な方策を決め、実施していく。また、家庭での読書を進めていくために、親子読書を今後も定期的に実施していきたい。
	生徒指導	全教職員が共通理解のもと、生徒指導に取り組めた。保護者アンケートでは、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせると、「学校は子供のことについて相談しやすい」90.1%、「学校は、保護者からの連絡や相談に素早くかつ適切に対応している」92.2%であり、家庭とも連携を図りながら取り組んでいる。	A	報告・連絡・相談を合い言葉に、教職員全員の共通理解のもと、生徒指導にあたっていく。また、「学校のきらりさん」を決めるなど、ポジティブな行動支援の視点からのアプローチをさらに充実させていく。
	心の教育(人権教育)	日常的に人権教育について取り組み、心の教育の育成に取り組んできた。保護者アンケートでは、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせると、「学校はいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」92.1%、「学校は、自分や周りの人を大切に教育(人権教育)に取り組んでいる」90.8%であった。	A	計画的に授業研究を行い、スキルアップを図っていくとともに、互いを認め合い、支え合う集団(学校)づくりを目指し、学校経営(学級経営)に取り組む。また、地域を知るための研修を実施するなど、本校の実態に応じた人権教育の充実にも努めていきたい。
	健康・安全教育(体力づくり)	体育主任が中心となり、水泳、陸上、体操、マラソン、なわとび等を計画・実施し、児童の体力向上を図ることができた。保護者アンケートでは、「学校は子供の体力づくりに積極的に取り組んでいる」の項目は、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせると92.9%であった。	B	体力づくりに関しては、感染状況を考慮しながら、適切な時期を見計らって計画・実施し、児童一人一人の体力向上を育成していきたい。安全教育(防災・防犯)については、計画的に避難訓練を実施するとともに、地域や関係諸機関と連携しながら取り組んでいく。
	特別支援教育	支援を必要とする児童や気になる児童に関して、全教職員で共通理解を図りながら指導したり、家庭や関係機関と連携したりして、個に応じた指導の充実にも努めた。	A	毎学期の始めに個別の指導計画を作成し、それに沿った指導ができるようにする。また、保護者と連携しながら教育相談等を行い、専門的な視点からの指導の充実を図る。
保護者・地域との連携	情報発信及び開かれた学校づくり	毎月の学校だよりや学年だより、PTA新聞、HP等で情報発信を積極的に行なった。保護者アンケートでは、「学校は学校(学級)通信やHPなどによって学校の様子や学習内容などをよく知らせている」の項目が、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせると93.6%であった。	A	PTA総会、参観日、学年懇談、個人懇談、HPなど、様々な場と機会を捉えて、情報を発信していく。また、今年度、「こしよっ子参観日」を録画配信したように、保護者のニーズに対応できるような発信方法を検討していく。
	PTA活動の活性化	年度当初に各部会において、今年度の活動について計画を立てたが、コロナ禍のために中止や変更をするなど、計画通りにはいかなかったが、その都度話し合い、臨機応変に取り組んだ。	B	今後も「WITHコロナ」での教育活動が予想されるので、しっかりとPTA役員部、各専門部と連携を図りながら、臨機応変に活動していきたい。
	地域の人材や外部講師の活用	お話玉手箱の方による読み聞かせやTROどなりの方による麦づくり・ハットライスづくり、青年部による米づくりなど、制約の多い中に関わらず、多くの方の協力と工夫により、様々な体験活動を実施することができた。	A	保護者アンケートでは、「学校は体験活動等を通して、ふるさと御所を大切に教育に取り組んでいる」の項目は、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせると、97.2%であったので、今年度以上に地域に根ざした教育を進めていきたい。
	地域行事やボランティア活動への参加	コロナ禍の影響で地域の行事が縮小され十分に参加できていない。	C	「POSTコロナ」を見据えて、地域の様々な関係機関とのつながりを継続していく。

4 学校関係者評価(学校評議員からの意見)

- ・挨拶をすることは、社会に出てからも大切なことなので、家庭と連携を図りながら引き続き指導してほしい。
- ・タブレット端末を有効的に活用する必要性を感じている。発達段階に応じた情報モラル教育を充実させてほしい。
- ・今後も場に応じた丁寧な言葉遣いができるよう指導してほしいが、あたたかみのある方言(こしよっ子らしさ)も同時に大切にしてほしい。

5 総合評価

学校評価の基礎資料として行った児童・保護者・教職員のアンケート結果は、全体的に見ると、高評価であった。しかし、ゲームをする時間が増加していることや、読書時間が少ないこと等の課題が見られた。コロナ禍の影響によって家庭で過ごす時間が増加しているので、ノーメディアデー(毎週水曜日)の過ごし方や親子読書の充実など、今後も家庭での過ごし方について、保護者の理解と協力を求めていきたい。そして、学校・家庭・地域の連携をさらに密にし、全体で子どもを育てるというスタンスに立ちながら、さらなる教育活動の充実を目指し取り組んでいきたい。